

## 平成 22 年度事業報告書

### 1. 事業の概況

平成 22 年度は、国連の定めた「国際生物多様性年」であり、我が国においても生物多様性保全および環境保全に対する取り組みが強化され、環境省などを中心に関連行事が各地で実施された一年でありました。

一方、ゴルフ界では、男女若手プロの活躍などにより引き続きゴルフ人気は幅広い世代で高まりを見せました。しかしながら、今年 3 月 11 日に発生した東日本大震災および福島原発事故は、未曾有の大災害となり、我が国の社会および経済に大きな影響を及ぼすことが懸念されると同時に、東北・関東エリアの多くのゴルフ場が被害を被り、既にゴルフ業界の経営環境にも影響を及ぼし始め今後の動向が危惧されるところです。

このような中であって、当会は従来からの公共施設の緑化・先駆的な環境保全事業の着実な遂行はもとより、緑化貢献に対するゴルファーの顕彰施策の充実や、環境や健康などゴルフとゴルフ場の持つ多面的な社会貢献の周知などにも努めました。

これもひとえに、全国の多くのゴルファー・ゴルフ場をはじめ、環境省、林野庁などの関係省庁、都道府県、(社)国土緑化推進機構、各県緑化推進委員会、(財)河川環境管理財団、国立公園関係団体、九州緑化促進協力会、賛助企業、ゴルフ関連団体など皆様方のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

### 2. 会員増等への取組み

#### (1) 会員ゴルフ場の維持・拡大

厳しい事業環境が続く中、会員ゴルフ場の減少防止・新規会員拡大策として、平成 22 年 1 月 1 日より「会員ゴルフ場弔慰金制度」をスタートしました。これは、会員ゴルフ場でプレー中に不慮の事故・疾病・天災で死亡された方に対してゴルフ場に代わって、当会からご遺族に弔慰金をお支払いする制度です。機関誌「緑の通信」の発行の機会をとらえ、全国約 2,400 のゴルフ場に当会の活動 PR と入会勧奨を各県緑化推進委員会の代表者の添え状などを同封して行いました。また、当会の理事をはじめ関係各位の積極的なご支援を得て、ゴルフ場訪問などによる入会勧奨を行うとともに、会員の維持・継続にも努めてまいりました。以上のような諸活動の結果、新たに次のゴルフ場にご入会頂きました。

紫香楽国際カントリークラブ (滋賀県)

京都ゴルフ倶楽部 (京都府)

(今までにご協力を頂いたゴルフ場は累計 372 コース)

(2) 賛助会員・寄付金の拡大

多くの賛助会員(巻末資料2)や寄付会社等からのご支援を頂いております。

また、ホールインワンを達成された146名ものゴルファー、グリーン&エコ「熱烈ゴルファー」賛同者、永年緑化貢献「エージシュート大賞」受賞者、SANYU-SHA. CLUB(大阪)などゴルファーのサークル、環境イベントのロハスフェスタ(大阪万博記念公園・東京都光が丘公園)実行委員会からもご寄付を頂きました。改めて御礼申し上げます。

3. 地方緑化事業

当会の主力事業として、下記の通り、学校等の社会公共施設の植樹に加え、植栽樹木のメンテナンス、花壇の整備など各地域で住民に喜ばれる緑化環境の整備を行いました。

(1) 緑化協力金の配分

ア. 平成22年9月(第67回配分、平成22年1~6月醸金分)と平成23年3月(第68回配分、平成22年7~12月醸金分)に、地方緑化事業費として合計75百万円を表1の各団体に配分しました。

[表1] ゴルフ場の所在区分による地方緑化事業費の配分(委託)先等

ゴルフ場の区分	緑化協力金の配分(委託)団体	委託事業の内容と地方緑化事業費配分額 合計 74,683 千円
①一般ゴルフ場	都道府県緑化推進委員会等	公立の小中学校、病院、福祉施設などの社会公共施設への植樹 37,427 千円
②国立公園内ゴルフ場	各地域の国立公園協会等	国立公園等の環境・美化緑化活動 4,973 千円
③河川敷ゴルフ場	河川環境管理財団	協力ゴルフ場のある水系の川辺の植樹 河川環境の美化緑化及び保全に関する調査研究の助成 32,283 千円

イ. 昭和52年度の第1回から第68回までの地方緑化事業費の累計は6,243百万円となりました。

(2) 地方緑化事業

当会が配分した前項の緑化協力金に基づき、各都道府県緑化推進委員会、各国立公園協会、(財)河川環境管理財団等は、表2のとおり新たに学校・老人福祉施設など93ヶ所に9千本の植樹を行いました。

なお個々の植樹に際しては、会員ゴルフ場名を記載した標識の設置や、児童・学校長等から協力ゴルフ場へのお礼状の送付を各緑化推進委員会を通じお願いするなど、地域社会とゴルファー・会員ゴルフ場との連帯意識の醸成に努めました。また、社会環境の変化に応じるため植樹以外にも植栽樹木のメンテナンス、花壇の造成、花の種の配布など地域で喜ばれる緑化・環境整備活動などを行っております。

### (3) 緑化事業の規模

当会は、次項で述べる「全国緑化事業」としても13ヶ所、2千本の植樹を行っており、昭和52年度の第1回から平成22年9月の第67回配分(第68回分は未着工が多いため除外)までの植樹実績合計は、次表2の通り累計8,354ヶ所、1,964千本となりました。

[表2] 緑化実績

区 分	平成22年度実績		累 計	
	植樹ヶ所	植樹本数	植樹ヶ所	植樹本数
地方緑化事業	ヶ所 93	千本 8.9	ヶ所 5,905	千本 1,544
全国緑化事業	13	2.2	2,449	420
合 計	106	11.1	8,354	1,964

## 4. 全国緑化事業

前項の「地方緑化事業」以外の全国的視点に立って実施する環境緑化・環境保全事業を「全国緑化事業」と称しておりますが、実施した主なものは次のとおりです。

### (1) 緑化事業

ア. [松枯れ対策] 「松くい虫防除対策」として、東大千葉演習林で行う抵抗性松苗木の開発・改良の研究を助成するとともに、苗木を希望される全国の会員ゴルフ場や公的な場所などに平成22年度は約1.9千本を配布しました。(累計 322千本)

### (2) 特別事業

ア. [校庭の芝生化] 当会が造成に協力した『神戸震災復興記念公園』の多目的芝生広場で、平成22年11月に第1回スナックゴルフ大会が開催されました。普及啓発の一環として、子供たちに芝生を知ってもらう小冊子『芝生キッズくらぶハンドブック』を発行、学校、ゴルフ関係者などに配布、ご活用頂き、好評をいただいています。

イ. [生物多様性保全事業への助成] 全国各地の絶滅が危ぶまれている樹木の救済を助成、平成17年度から継続支援してきました八ヶ岳・南アルプス地方に自生する銘木「ヒメバラモミ」の増殖・復元事業が終了し、冊子『絶滅危惧種ヤクタネゴヨウ・ヒメバラモミ増殖・保存事業(記録)』((社)林木育種協会制作)を関係の方々に配布致しました。

ウ. [国際生物多様性年への協力]

2010年は国連が定めた「国際生物多様性年」であり、10月には名

古屋市で「生物多様性条約第 10 回締約国会議」が開催されるなど、環境省を中心に生物多様性保全への取組みが実施されました。当会は「生物多様性 EXP02010 in 福岡・大阪」への出展、また、環境省が提唱する地球規模の植樹運動「グリーンウェイブ 2010」(3 月 1 日～5 月 31 日)への参加を全国のゴルフ場に呼びかけ、85 コース、8,729 本の植樹が行われました。

「豊かな生物多様性を持つゴルフ場」をメインに周知活動を行いました。

エ. [ゴルフ場の生物多様性の調査研究]

日本ゴルフ場支配人会連合会と共同で、アンケート調査を実施して取りまとめた『豊かな生物多様性を持つゴルフ場』を作成、配布しましたが、これをベースに更に調査研究を深めるため委員会を設置し、生物多様性保全の視点からゴルフ場管理をするマニュアル案の作成を進めました。

オ. [ゴルフの社会貢献の紹介] 平成 20 年 5 月から 2 カ年にわたり『環境と人にやさしいゴルフとゴルフ場』と銘をうち、現代社会において環境・健康などゴルフとゴルフ場の持つ社会性と意義を各分野の有識者等にご執筆頂き、GGG ホームページとゴルフ専門誌に毎月掲載してきました。これを集大成した冊子を平成 22 年 10 月に発行、ゴルフ関係など多方面に配布し好評を得ています。

カ. 【GGG 創立 30 周年特別記念事業の継続】

[安全対策と景観保持の樹木管理技術] 名木の倒壊などの原因となる木材腐朽菌病(キノコ)について、全国の樹木医などの 2 年間にわたる協力を得て、本邦初の「緑化樹木腐朽病害ハンドブック」を発刊、国指定天然記念物の樹木保護等にご活用いただくなどして参りましたが、そのノウハウの一層の普及を図るため、平成 22 年度は大阪府河内長野市のヶ池公園で現地研修会を開催しました。この現地研修会は、埼玉県上尾市の八枝神社、茨城県城里町、福岡市鳥飼八幡宮、鎌倉市建長寺に引き続き 5 回目の実施になります。大変、好評を頂いた事業でしたが、今回で終了致します。

キ. [ゴルファーの緑化貢献の顕彰] GGG の会員ゴルフ場でのプレーを通じて緑化事業に貢献して頂いたゴルファーの方々をゴルフ場を通じて顕彰する制度としてスタートした「年間最多プレー『緑化貢献大賞』」ならびに「永年緑化貢献『エージシュート大賞』」を継続し、大変ご好評を頂いております。

ク. [新たに提案された事業]

○第 10 回ロハスフェスタへの参加

平成 22 年 4 月大阪万博公園、5 月東京都練馬区光が丘公園で開催された市民が集う環境イベントであるロハスフェスタに参加し、当会の PR、校庭芝生化の普及啓発、生物生息の場であるゴルフ

場の周知活動、スナッグゴルフ体験コーナーの実施を通じて、ゴルフの社会貢献のPRとジュニアゴルファーの育成に努めました。なお、ロハスフェスタ実行委員会よりご寄付を頂きました。

○日本大正村の植樹事業

今年、大正百年記念事業を実施計画している(財)日本大正村(岐阜県恵那市、司葉子村長)の記念植樹事業に協力し、(社)岐阜県緑化推進委員会の委託事業として実施しました。

(3) 賛助事業

ア. [自然保護 NGO への助成] 当会の資金により設立された「公益信託自然保護ボランティアファンド」を通じ「登別市観光ボランティアガイド会」など自然公園内の緑化・環境整備等を実施している NGO 等 25 団体への助成を行いました。

昭和 61 年 10 月のファンド創設以来の支援は、延べ約 415 件、累計約 147 百万円になります。

イ. [環境団体への支援] 「WWF ジャパン」など環境保護団体の活動にも引き続き支援を行いました。

ウ. [環境緑化行事への協賛等] 環境省・林野庁・都道府県など関係省庁等が企画する「巨木を語ろう全国フォーラム」、「みどりの感謝祭」、「森林と市民を結ぶ全国の集い」など、各種行事に協賛しました。

5. その他の活動

(1) 事業PR等

ア. ゴルフフリーマガジン「ゴーゴル」やゴルフ業界誌「ゴルフ場セミナー」「ゴルフマネジメント」などでの事業活動の広報・PRを積極的に実施しました。

イ. 当会やゴルファー・ゴルフ場の行っている環境貢献活動を一般ゴルファーなどへ周知する活動として、当会の主な緑化事業等を新聞・テレビ・雑誌などに取り上げて戴くよう、適宜報道資料を媒体各社に提供するなどパブリシティ活動を実施しております。

ウ. 機関誌「緑の通信」を発行し、全国のゴルフ場、関係団体等へ配布しました。また、ジャパングルフフェアなどの会場でパネル展示等によるPR活動を行いました。

エ. ホームページ (<http://www.ggg.or.jp/>) については、『新着情報・活動報告(プレスリリースなど)』のページを充実したほか、『グリーン&エコ支援「熱烈ゴルファー」募集』を継続しました。

オ. 環境大臣による会員ゴルフ場の表彰の実施をお願いしてまいりましたが、平成 22 年度も樟葉パブリックゴルフコースが「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞されました。

カ. 協力ゴルフ場に対する各県による顕彰を繰り返し要請してまいり

ました。一例ですが、平成 22 年 5 月に(社)千葉県緑化推進委員会から野田市パブリックゴルフ場けやきコース、平成 23 年 3 月には(公社)埼玉県緑化推進委員会から東都秩父カントリー倶楽部、太平洋クラブ&アソシエイツ江南コース、小川カントリークラブが感謝状を贈呈され、また、茨城県でも茨城ゴルフ倶楽部など 5 コースが、緑化功労者の感謝状を受けるなど、徐々に各県の協力支援が強化されつつあります。

(2) 「日本ゴルフサミット会議」などゴルフ諸団体が取り組む「ゴルフ場利用税の廃止運動」、「公務員倫理規程の改正要望」に協力するとともに「ジャパンゴルフフェア 2011」((社)日本ゴルフ用品協会主催)などの諸事業にも積極的に参加しました。

(3) 公益法人制度改革の準備

平成 20 年 12 月 1 日に施行された新公益法人制度への移行につきましては、平成 23 年 3 月に「公益社団法人」の認可を申請し、現在、内閣府で審査中です。

## 6. 正味財産増減の概況

ゴルフ場の厳しい経営環境のなか、当会活動へのご理解・ご協力を得るよう努めてまいりましたが、緑化協力金収入(対前年度比 88.6%)、経常収益(対前年度比 89.2%)とも前期比で減少いたしました。

一方、緑化事業につきましては、従来からの活動に加え、新規施策を含む特別緑化事業にも鋭意取り組むとともに、管理費等の経費節減にも努めました。

その結果、第 1 号議案の 2 の通り、当期経常増減額は△23 百万円(前期：△9 百万円)、当期末の正味財産期末残高は 191 百万円(前期末：213 百万円)となりました。